

「光源寺ひかり子ども会」は今年で創立一〇〇年

ひかり子ども会OB 掘田 武弘

長崎市内を走る路面電車が、車体に「ひかり子ども会創立一〇〇年」の看板を下げて走っている。この風景を「何ッ？」と立ち止まって眺める市民の姿も見受けられる。「ひかり子ども会」とは長崎市伊良林の「光源寺」の日曜学校(子ども会)である。この子ども会は今年で創立一〇〇年を迎えた。路面電車の宣伝は子ども会の卒業生が資金を出し合い走らせているのです。

「お寺の日曜学校」は昭和二十年、三十年代までは多くのお寺で行われていた。今に残る戦前、戦後の「花まつり」プログラムを見ると当時は、長崎市仏教連合会、仏教教育連盟が主催していた。そして、会場は南座・



「ひかり子ども会」100年目の子供たち。(平成21年7月)

栄之喜座・八幡座等で、戦後は出島の三菱会館が多く、これらの舞台では長崎の子ども達が児童劇・日本舞踊と演技を競い合っていた。昭和二十六年四月の「花まつり」大会は「西日本会館」(旧三菱会館)であった。当時のプログラムを見ると参加日曜学校は、児童舞踊が得意な鉄山良弘先生の筑後町永昌寺「つぼみ日曜学校」と立花文昌先生の「観善寺子供会」がある。この二つの日曜学校はなぜか女の子が多く、可憐優雅な踊りの中にライバル心を燃やしていた。これと同じように児童劇で

ライバルだったのが福田稔先生、松尾岩根先生、吉岡美代次先生等の「薬師会」と、越中哲也先生が率いる光源寺の「ひかり子供会」だった。この年の児童劇はひかり子供会が「青い空の子ども達」、薬師会が「パンドラの筐」だったが、二つの日曜学校は男の子が多いだけに激しいライバル心むき出しにして熱演していた。この他に三浦達也任職の今籠町「大光寺日曜学校」、井樋ノ口・聖徳寺の「聖徳保育園」、片淵町「深廣寺日曜学校」、大浦相生町「妙行寺戸町日曜学校」、松尾利信先生の「稲佐幼稚園」の八つの日曜学校(子ども会)が参加している。

長崎最初の日曜学校は桶屋町「光永寺」

長崎市で日曜学校を最初に始めたのは中島川沿いの桶屋町「光永寺」のようだ。「長崎市史地誌編仏部」(大正十二年 長崎市役所発行)に、「明治四十二年三月七日、当寺は率先して日曜学校を寺内に創めた、而後市内の各寺院もまた競ふて日曜学校を興し、児童を教育して宗教的趣味を鼓吹する様になった。：真宗教義、修身作法等の学科を教授し、時々野外遠足を試み、或いは運動会を催し、以て身心の修養に寄与しつつある」と記されている。

また今年創立一〇〇周年を迎えた光源寺「ひかり子ども会」は、創始者の越中聞信師が履歴書に、「明治四十二年六月六日より自坊に於いて日曜学校を開き…」と記してある。当時の日曜学校は「光蘭日曜学校」とい、その頃の記念写真には三〇〇人近くの子ども達が写っている。大正時代、それに続く昭和初期は日曜学校活動が最も盛んだった時代で、長崎市内のほとんどの寺院で開かれていたのではないだろうか。その後、日中戦争、太平洋戦争の拡大で次第に下火となっていった。昭和二十年八月十五日、太平洋戦争が終わり、戦地に赴いていた日曜学校指導者達が復員してきた。その中の一人が越中哲也先生で、原爆で

風信

○中国成立六十周年記念祝賀会が九月三十日(水)午後六時より中国長崎総領事館主催で開催され、御招待をうけた。本会を代表して丹田女史に出席して戴く。「盛会であり、さすがに全てが世界的水準以上に達した中国ですね」との報告。昔より長崎文化とは深い関係のある中国、きっと、長崎の今後にも良い方向付になる事でありましょう。

○長崎最大の「おくんち」も、国無形民俗文化財に新しく指定を受けた「若宮神社の竹芸」も、地方色ゆたかな「茂木くんち」も、全て無事修了しましたね。

○坂本龍馬の長崎ブーム、遂に私の処にも押しよせて参りました。

其の一、純心大学の宮崎賢太郎教授は居合道教士八段としても有名であるが、今回は十月二十四日、島原市で本県初の全日本居合道大会が開催され、其の翌日、日本で最高峰の居合道範士の先生方が龍馬の遺跡を訪ねて長崎に来られるので、私に先生方の案内役を引きうけて下さいとの事。承知いたしました。

其の二、長崎市立図書館より、十一月一日(日)午後一時半「坂本龍馬と長崎西洋料理」の題名で第二回長崎学講座を担当して下さいとの事。承知しました。

其の三、長崎・「楽」出版社より季刊〇六号に「亀山焼と亀山社中」の原稿依頼あり。みろくや刊・長崎開港物語・三十五にも「坂本龍馬と長崎料理」の原稿依頼。共にお引き受けいたしました。

○一昨日、長崎市収納課大東良平氏来訪、「先日、福井市を中心に開催された全日本都市職員バドミントン大会壮年団体の部で私が所属する長崎市職員バドミントン部が優勝しました。」と話して下さい。「そもそも長崎の地はバドミントン発祥の地。出島オランダ屋敷内には其の記念碑もあるので、すから、よかったですね」と、お祝辞を申し上げた。

○純心大学博物館より私の米寿を祝って、本年末発刊の長崎純心大学博物館研究・第十八号に私が以前より記述していた「長崎の文化と関係あるキリシタンについて」の小論を編集発行して下さいとの事。尚、本誌は研究論文集であり一般には発売しないので御希望の方は本協会事務局(☎八二二一五四〇)まで、お申し込みおき下さいとの事。

廃墟となった故郷を見て立ち上がった。当時は住む家が無い、食べるものも無い、娯楽に飢えていた。長崎駅では戦争孤児となった子供たちのたむろする姿を見た。また同じ志を持つ薬師会の福田稔先生、観善寺の立花文昌住職、永昌寺の鉄山良弘住職らも同調し「長崎仏教教育連盟」を結成、全市民的に仏教精神に基づく少年教化、日曜学校活動を広められていった。それは終戦後間もなくから昭和三十年過ぎまでだった。

長崎市での子ども会活動(社会教育)は進駐軍のニプロ教育官によって推奨されたという。(越中哲也先生談)昭和二十七年、社会教育法施行三周年を記念して、当時の子ども会指導者が長崎市から表彰された。「ひかり子ども会」越中哲也先生、「薬師会」福田稔先生、それに「西泊少年の町」柴田清先生の三人である。いずれも民間の人であった。当時、長崎市内の子供会数は昭和二十八年二十団体で、まだ教育委員会指導の子ども会はなかった。

昭和三十年、越中哲也先生は長崎市立博物館学芸員に専念することになり、指導者を弟の楠達也師が引き継いだ。またこの頃になると子供の世界も大きく変わり始めていた。受験・塾通い、テレビの登場、遊びの多様化、子供の世界の間関係の変化など、そして決定的な要因は昭和四十年過ぎ頃から顕著となった少子化であったように思う。伊良林でも、光源寺でも、周囲を見渡すと確かに子ども姿が少なくなっていた。

一〇〇年目の「ひかり子ども会」は、現在も毎週土曜日の午後七時から行なわれている。参加の子ども達は多かつたり少なかつたり、毎週十五、六人から三十人余りが集まる。佛前に合掌する姿、ゲームに熱中する子ども達の笑顔はみな素直である。宗教教育、情操教育が必要と声高に叫ばれる今の世の中、「ひかり子ども会」の子ども達は自ずから「命を大切に心する心」を学んでいるように思う。参加は自由、其の子ども達は市内のあちこちから三々五々と集まり、子ども達の世界を築きこんでいる。

(NBCテレビ資料室勤務)

ひかり子供会一〇〇年記念式 日時 十一月八日(日)午前十時より
記念式とお話 場所 長崎市伊良林町光源寺
お話 長崎八十八話 越中哲也
(ご自由に御参加下さい)

長崎歴史文化協会研究室

TEL八二二一五四〇
十八銀行公会堂前出張所二F

